

志賀町小学生英語教育実践プロジェクト+ (プラス)

団体名 ● 前田ゼミナール、清水ゼミナール
代表者名 ● 前田昌寛 (人文学部国際英語学科・教授)

1 はじめに

昨年度に引き続き今年度も国際英語学科・前田ゼミと、こども学科・清水ゼミ合同で、「志賀町小学生英語教育実践プロジェクト+ (プラス)」として活動を行った。2025年10月23日に前田ゼミ、清水ゼミ合同で学生同士のうち合わせの会を持ち、今後の協力体制について話し合い、以下の2つのイベントをすることに決定した。

- 1) 国際交流ワークショップ (in 志賀町)
- 2) クリスマスパーティ (in 金沢)

2025年11月16日に清水ゼミ (学生12名、児童16名) が志賀町地域交流センターにおいて「国際交流はじめての一步」と題して活動を行った。午前と午後で同じものを実施した。各回とも第1部では、テディベアプロジェクト (TBP) の紹介、英語で自己紹介カード作成を行い、後半では VR ゴーグルを使っての世界旅行、ドローンを操縦しての台湾観光地訪問シミュレーションを行った。

そして、2025年12月7日には前田ゼミと清水ゼミ合同 (学生12名、児童13名) で石川県文教会館において「えいごクリスマス会」を実施した。チャーターしたバスで志賀町の子供たちに金沢に来てもらった。午前は、ネームカード作りに始まり、クリスマス英語クイズ、ビンゴクイズをした。午後は、テディベアプロジェクトの活動の一つぬいぐるみの滞在日記を英語で記載、その後は VR ゴーグルを使った英語で VR 宝さがしをおこなった。

2 活動の内容

2-1 「国際交流はじめての一步」(11月16日)

小学校の高学年では週2回、中学年では週1回の英語活動が始まっている。習った英語を使う場面があれば、その修得も早いと思われる。清水ゼミでは金沢市内の小学校と台湾の小学校をつなげるテディベアプロジェクト (TBP) を行っている。この TBP のワークショップを集まった志賀町の小学生相手に行った。そのあと同時に ICT を活用して世界旅行や台湾訪問の疑似体験をおこなった。

○ TBP の疑似体験活動

自分たちの代わりに台湾の小学校へ送るテディベアについての性格付けをおこない、ぬいぐるみの留学生に着せる服をデザインした。



図1 TBPの服のデザイン

○ ICT を活用した世界旅行や台湾疑似体験



図2 台湾高雄市の龍虎塔をドローンで訪問

台湾の観光地を巡るツアーを企画。スタートは台北の龍山寺で、途中夜市と千と千尋で有名な九分の山を越えて、南部の高雄の龍虎塔をゴールとするコース。ドローンの飛ぶ方向を英語で指示しながら遊覧飛行の体験となった。

2-2 「えいごクリスマス会」(12月7日)

このイベントは、大学生が志賀町の小学生に英語の楽しさを伝える恒例行事であり、今年は小学生13名と本学学生12名が参加した。

グループに分かれて英語での自己紹介や英語クイズ、ビンゴなどを行い、大学生と子どもたちが笑顔で交流を深めた。

○ Exchange a card (英語で自己紹介)



図3 大学生との自己紹介カードづくり

英語を使って自己紹介カードを作成し、小学生と大学生が名刺交換をする。持っているカード全てを渡したら終了となる。

○ Christmas BINGO



図4 英語でビンゴゲーム

「Santa Claus」など身近な英単語を使って楽しくビンゴゲームをした。BINGOになると、どんどん小学生の手が挙がった。

3 まとめ

参加した大学生から、次のような声が寄せられた。

・ 人文学部国際文化学科 3年次 H・I さん

今回のクリスマス会では、普段関わる機会の少ない小学生と活動でき、とても新鮮でした。子どもたちは想像以上に活気があり、自分の意見を積極的に伝える姿が印象的でした。中高の英語教員を目指す上で、多くの学びが得られた貴重な時間になりました。

・ 人間科学部こども学科 3年次 H・M さん

今回のクリスマス会では前田ゼミの英語と清水ゼミのICTを組み合わせ、子どもたちが実際に活動しながらたくさんの新たな学びを得る姿が見られました。英語の活動では、それぞれが知識を出し合い英文を作るなど自発的に支え合う場面が多くあり、「英語をもっと話せるようになりたい!」と視野が広がるきっかけとなりました。また、VRゴーグルで宝探しをする活動では臨場感あふれる映像に驚くとともに、英語での指示を受けて楽しそうにICTに親しむ姿が印象的でした。児童にとっても大学生にとっても、新たな挑戦ができたとても有意義な機会となりました。

また、参加した小学生からは「英語でいろいろなことを知ることができ、楽しく興味深かった」「大学生が優しく教えてくれた」といった感想が寄せられ、本活動は英語に親しむきっかけとして有意義な時間となった。

専門分野の異なる二つのゼミが連携し、前田ゼミの中高英語教育と清水ゼミの小学校英語・国際理解教育に関する知見を生かした、内容面・運営面ともに充実した活動となった。両ゼミ間の連携も極めて円滑であり、学科の枠を越えて学生が目的意識を共有することで、大規模な行事を主体的に運営できることを学生自身が実感する機会ともなった。本プロジェクトにあたりご協力いただいた皆様に心からお礼申し上げたい。